

ルネサンス期に発達した技術が 16 世紀初頭のヨーロッパに与えた影響について、以下の語句を用いて説明しなさい。

グーテンベルク
人文主義

サン＝ピエトロ大聖堂
ドイツ語訳

宗教改革

筑波大学

15 世紀半ばにグーテンベルクが活版印刷を改良して以降、大量の印刷物がヨーロッパで流通するようになった。ルネサンス期において、古典古代を理想化して個人を重視する人文主義の思想も活版印刷を通じて普及し、カトリック教会の権威失墜に大きく貢献した。他方で教皇レオ 10 世が、サン＝ピエトロ大聖堂の改築に贖宥状の売上金を見込めたのも、活版印刷による大量生産が可能だったからである。またこの贖宥状を批判して宗教改革の口火を切ったルターも、活版印刷で量産したパンフレットやビラでその主張を広め、諸侯や農民など幅広い階層から支持を得た。さらにルターは、救済は個人の信仰に基づくという思想から、それまでラテン語で読まれていた『新約聖書』をドイツ語訳し、民衆がみずから読解できるようにしたが、その普及も活版印刷で可能となった。このように 16 世紀のルネサンスと宗教改革はいずれも活版印刷を前提とした出来事であった。

宗教改革は、ルターにより神学上の議論として始められたが、その影響は広範囲に及び、近代ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たした。ドイツとイギリスそれぞれにおける宗教改革の経緯を比較し、その政治的帰結について述べなさい。その際、次の語句を必ず使用し、その語句に下線を引きなさい。(400 字以内)

アウクスブルクの和議

首長法

一橋大

ドイツの宗教改革は内乱を伴って進行した。1517 年に「95 ヶ条の論題」を発表したルターは、のちに教皇の権威を批判して破門宣告を受け、ヴォルムスの帝国議会で法の保護外に置かれ、ザクセン公の下で『新約聖書』のドイツ語訳を行った。現世の秩序を肯定するルターの考えは諸侯の間に広まり、諸侯はシュマルカルデン同盟を結成して皇帝と戦った。55 年のアウクスブルクの和議によって領主と都市に宗教選択権が認められた結果、領邦教会制が成立してドイツの政治的分裂は深まった。一方、イギリスの宗教改革は国王主導で進行した。王妃離婚問題を契機に、ヘンリ 8 世が 34 年に国王至上法を發布してイギリス国教会を成立させた。エドワード 6 世時代には一般祈祷書が制定され、メアリ 1 世時代のカトリック復活を経て、エリザベス 1 世により 59 年に統一法が發布されて国教会が確立した。この結果イギリスでは絶対王政が強化された。

2025 京都大学

アジア産の商品はヨーロッパ人をヨーロッパ外部世界へといざなった。ポルトガルに対抗しようとしたスペインは、西回りでアジアを目指したが、結果的にアメリカ大陸を「発見」し、そこに植民地を建設した。アジア産商品とラテンアメリカ産商品を具体的に対比した上で、16世紀から18世紀に至るスペインのラテンアメリカ植民地経営の特徴とその変遷を、労働力の供給源の変化に留意しながら300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

アジアの香辛料や絹、陶磁器は産地の人々の自発的労働によって生産され、交易を通じて産地にも発展をもたらしたが、アメリカ産の金・銀や砂糖は強制的な労働によって生産され、産地に発展をもたらすことはほぼなかった。16世紀にスペインはエンコミエンダ制を導入し、スペイン人入植者にキリスト教布教の義務と引き換えに先住民を使役することを認め、銀の採掘のために先住民に労働を強制した。こうした過酷な支配や西欧から持ち込まれた疫病によって先住民が激減すると、新たな労働力としてアフリカから黒人奴隷を運び込むアシエンダ制に転換し、スペイン人地主が黒人奴隷を用いてプランテーションをおこなって砂糖などの商品作物を栽培させた。

15 世紀からマゼランの航海に至るヨーロッパ人の「大航海」事業について、その原因を中心に論述せよ。
なお、論述するにあたっては、下の語句をすべて使用し、使用した箇所には下線を引いておくこと。

エンリケ

香辛料

世界の記述

トスカネリ

レコンキスタ

京都府立大学

13 世紀、地中海東部では北イタリア商人がムスリム商人と香辛料や絹織物などの奢侈品を盛んに取引した。こうした中で中国を訪れたマルコ=ポーロは、帰国後『世界の記述』を著してアジア各地の情報を伝えた。ヨーロッパ人のアジアへの関心が高まり、とりわけインドの香辛料を直接獲得する欲求が高まる中、レコンキスタを完了させたポルトガルは、15 世紀前半に航海王子エンリケの奨励のもとでいち早く近海の探検を進め、15 世紀末には喜望峰やカリカットまで到達した。この動きに焦ったスペインは、トスカネリの『地球球体説』の影響を受けたコロンブスを援助してインドを目指し、結果的にアメリカ大陸に到達した。この頃、造船技術の改良によって長期・長距離航海の可能な大型帆船が開発されたことも一因に、「大航海」事業は世界各地を結び付ける形で発展した。こうした中でマゼランは、スペインの援助を受けて西廻りで出航し、船団は初の世界一周を達成した。

千葉大学

以下の語句を用い、ヨーロッパ絶対主義について国家形態と経済政策の関連性に留意しつつ論じなさい。なお、語句には最初に用いたときに下線を付すこと。(400 字)

官 僚

常備軍

重商主義

重金主義

貿易差額主義

絶対主義とは、16～18 世紀の封建社会から近代市民社会への過渡期に生まれた強力な君主政治に基づく初期の主権国家形態である。封建貴族の力が衰えるにつれて、国王は王権神授説でその地位を強化し、台頭してきた市民階級の支持を受けながら、官僚機構を通じて行政・司法を握る一方、租税制度に裏付けられた国王直属の常備軍を組織し、国民の直接支配を強めた。そして官僚と常備軍の維持には多額の財源が必要なため、国家が積極的に経済活動に介入する重商主義政策がとられた。これは初期においては海外からの貴金属獲得という重金主義であったが、後に国王が一部の特権商人に独占権を与え、輸出を振興する貿易差額主義をとることによって、経済の国家統制及び、自らの権力基盤強化を図るようになった。

一橋大

歴史的に「ネーデルラント」と呼ばれた地域は、14 世紀から 19 世紀前半にかけて、どのような歴史的経過をたどってきたであろうか。「ネーデルラント」を構成する各地域の宗教的特色や政治権力の移り変わりに留意しながら、この点について説明しなさい。その際、以下の語をすべて文中に用い、それらを最初に使用したところでは下線を引きなさい。(400 字)

七月革命 百年戦争 ウィーン会議 ユトレヒト同盟 ウェストファリア条約

ネーデルラント南部のフランドル地方は毛織物業が盛んで、羊毛をイギリスから輸入していた。そこをフランス国王が支配しようとしたことが百年戦争の一因となった。ネーデルラントは 14 世紀末にはブルゴーニュ公国の領土となり、翌世紀末ハプスブルク家の所領となる。スペイン国王を兼ねた皇帝カール 5 世の退位後にスペイン領となったが、フェリペ 2 世のカトリック政策などに反抗してオランダ独立戦争が始まった。カトリックの多い南部 10 州は脱落したが、カルヴァン派の多い北部 7 州はユトレヒト同盟を結成して 1581 年にオランダの独立を宣言して、1648 年のウェストファリア条約で国際的に承認された。南部はスペイン継承戦争後の 18 世紀初めにはオーストリア領となる。オランダはナポレオンに併合されたが、ウィーン会議で独立を回復して立憲王国となり南部を併合した。南部も七月革命の影響下、オランダから独立を勝ち取り 1831 年に立憲制のベルギー王国となった。

1477 年にネーデルラントがハプスブルク家の所領となったのは、ハプスブルク家のマクシミリアン 1 世とブルゴーニュ公女マリアとの結婚による。オランダ独立後もスペイン領だった南部は、スペイン継承戦争の最終講和条約（ラシュタット条約＝1714）でオーストリアに割譲された。

16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパの諸国家は、重商主義政策をとって自国の商工業を保護・育成しようとした。この重商主義政策はイギリスとフランスにおいてどのような形で行われたか。具体的な事実を挙げて、200字以内で論述せよ。

京大

[英] 毛織物工業を基盤に、私掠船でスペインの銀を奪取[無敵艦隊を破る]

東インド会社への特権授与 航海法でオランダの中継貿易を攻撃、英蘭戦争で勝利

[仏] 財務総監コルベールは王立マニファクチュアを設立、手厚い育成保護を実施

東インド会社を再建、東、西インドへの市場拡大のため英蘭に対し、植民地戦争を仕掛ける

私掠特許状によって、敵国の艦船を襲撃し、拿捕(だほ)する権利を認められた民間の船舶。

イギリスはエリザベス 1 世の治世に、毛織物工業の育成や東インド会社によるアジア貿易の拡大を図った。また、クロムウェル時代に航海法でオランダの中継貿易に打撃を与えつつ、革命後も重商主義を継続した。フランスは、ルイ 14 世のもとで財務長官コルベールが東インド会社再建や王立マニファクチュア設立を進め、イギリスと同様に産業保護主義で重商主義を進めた。また、北米、インドでイギリスと植民地抗争を行った。

16 世紀初頭から 18 世紀半ばまでのスペイン・フランス・オーストリアの三国をめぐる動向について、300 字以内で論述せよ。 ハプスブルク家・ブルボン家・カルロス 1 世・ルイ 14 世・三十年戦争・ユトレヒト条約・外交革命

名古屋大

16 世紀初めハプスブルク家のスペインはカルロス 1 世が神聖ローマ皇帝を兼任して強大化したが、オランダの独立、アルマダ戦争の敗北により同世紀末以降衰退した。代わってフランスのブルボン家が、17 世紀前半台頭して三十年戦争に介入し、ハプスブルク家に対抗、同世紀後半ルイ 14 世は国際政治の主導権を握った。18 世紀初めのスペイン継承戦争後のユトレヒト条約で、ブルボン家がスペイン王位を継承したが、両国の合併は阻止された。一方同世紀半ば、オーストリア継承戦争に敗れたオーストリアのハプスブルク家は、プロイセンへの対抗上、外交革命によりフランスと提携して七年戦争に臨んだ。ここに国際政治上の両家の対立は終わった

イギリスとオランダ(英・蘭)は、歴史上、いくつかの局面で重要な関係を持ってきたが、17 世紀における両国の友好関係と敵対(対立)関係について、次の語句(順序を問わない)を用いて、200 字以上 250 字以内で記述しなさい。なお、句読点、数字は 1 字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

名誉革命

アンボイナ事件

ルイ 14 世

英蘭戦争

早稲田大学 法

東インド会社を組織しアジア進出を本格化させた英蘭両国は香辛料貿易において対立を深め、モルッカ諸島でのアンボイナ事件を契機としてオランダはイギリスを東南アジアから駆逐した。一方、清教徒革命の後にイギリスがオランダによる中間貿易の排除を目的とする航海法を制定すると 3 度にわたる英蘭戦争が勃発し、商業覇権は次第にイギリスへと移っていった。フランスのルイ 14 世がオランダに侵攻すると英蘭は半仏の立場から接近し、名誉革命によってオランダのオラニエ公がウィリアム 3 世として英王に即位すると両国は同君連合となった。

1661 年以降のルイ 14 世の治世について 300 字以内で論述せよ。なお、論述するにあたっては、下の語句をすべて使用し、使用した箇所には下線を引いておくこと。

オランダ
ルイジアナ

コルベール

自然国境説

スペイン継承戦争

京都府立大学

コルベールを財務総監[財務大臣]として任用し、織物や板ガラスなど各部門に王立マニファクチュアの設立などをして国内の製造業の活性化につとめた。また、海外貿易の増大や植民地の拡大にも乗り出し、ほとんど活動していなかった東インド会社を 1664 年に再興したほか、アメリカでは五大湖からメキシコ湾に至るルイジアナ植民地を設立した。また、ヨーロッパにおいては、自然国境説を唱え、対外拡張策を強行し、隣国のネーデルラントに侵入して、オランダ君主と対立し、オランダ君主がイギリス国王ウィリアム三世となって以降もイギリス、オランダと激しく対立した。また、スペイン王カルロス二世の死後、自分の孫の王位継承権を主張し、スペイン継承戦争を戦って、スペインブルボン家を確立した。

1598 年にフランス王アンリ4世が発布した宗教寛容令を、ルイ 14 世が 1685 年に廃止した事実を指している。この寛容令は、カトリック、ユグノー(カルヴァン派)双方の信仰を容認することで、フランス国内の宗教内乱に終止符を打つ画期的なものであった。(イ)この寛容令の名称を答えなさい。また、(ロ)この寛容令の廃止がフランスおよび他のヨーロッパ諸国に及ぼした経済的影響について、100 字以内で説明しなさい。その際、次の語句を必ず使用し、用いた箇所すべてに下線を引きなさい。

ユグノー

商工業者

国内産業

産業の発展

東京外国語大学

(イ) ナントの勅令 [ナントの王令]

(ロ) ナントの勅令が廃止された結果、フランスではユグノーの商工業者が国外へ大量に亡命し、そのため国内産業の発展が阻害された。一方、ヨーロッパに拡散したユグノーは、プロイセン等の各国で産業の発展に寄与した。

百年戦争終了後からルイ 14 世親政開始までのフランスの中央集権化・絶対王政確立の過程を論述せよ。なお、論述するにあたっては、下の語句をすべて使用し、使用した箇所には下線を引いておくこと。

三部会

フランソワ 1 世

シャルル 7 世

フロンドの乱

新教徒(プロテスタント)

京都府立大学

百年戦争という長期の戦争によって諸侯・騎士は没落した。他方でカレー市を除く全領土を確保したフランス王シャルル 7 世は、大商人と結んで財政を立て直し、常備軍を設置して中央集権化を進めていった。シャルル 8 世のイタリア侵入を機にイタリア戦争が始まり、フランソワ 1 世の時代には神聖ローマ皇帝カール 5 世との間で激しく戦われた。この戦争が主権国家間の争いとして戦われたため、以後ヨーロッパには主権国家体制が形成されるきっかけとなった。16 世紀半ば以降になるとユグノーと呼ばれるカルヴァン派の新教徒(プロテスタント)が急増し、カトリックとの対立が激化していった。この対立に貴族間の党派争いも加わり、ユグノー戦争という内乱に発展した。この宗教戦争に外国勢力の干渉も加わったことから、ポーデンのように宗教問題よりも国家の統一を優先しようとする人々が増えていった。ユグノー戦争の過程でヴァロワ朝が断絶し、ブルボン家のアンリ 4 世が即位してナントの王令を発して、ユグノーにも信仰の自由を認めたことで内乱は終息した。ルイ 13 世の時代には、宰相リシュリューが王権に反抗する大貴族やユグノーをおさえ王権の強化に努め、身分制議会である三部会も 1615 年からは開かれなくなった。ルイ 14 世の幼少時代時代の宰相マザランもこうした政策を受け継ぎ、中央集権化を進めた。これに対して、高等法院や貴族がフロンドの乱を起こしたが鎮圧された。この貴族の反乱鎮圧により、絶対王政が強化された。ルイ 14 世の親政時代には、王は王権神授説を唱えて官僚制と常備軍を整え、ナントの王令も廃止して強大な権力を振るう絶対王政が確立した。

16 世紀から 17 世紀前半までのヨーロッパの国際情勢を念頭に置いて、三十年戦争の歴史的意義を 300 字以内で説明せよ。

横浜国大

三十年戦争は 1648 年のウェストファリア条約で終結した。スウェーデンとフランスが領土を拡大し、スイスとオランダの独立が国際的に承認された。アウグスブルクの和議の再確認が行われ、領主に宗教の選択権が与えられ、カルヴァン派も公認されたが、個人の信仰は依然として認められなかった。また、ドイツでは神聖ローマ帝国が名目化し、領邦分立と戦争の荒廃により、近代化が遅れたが、領土を拡大したプロイセン公国が台頭した。そしてブルボン朝とハプスブルク朝の 2 大勢力の抗争を中心に、ユトレヒト条約に至るヨーロッパの国際関係の大枠が確定した。また、カトリック教会は政教分離を強め、近代的教会へ転換した

※「歴史的意義」とあるから三十年戦争の経過を詳しく説明する必要はない。ウェストファリア条約の内容を簡単にまとめ、カルヴァン派の扱いにふれておく。設問の冒頭に「国際情勢を念頭に」という注文があることを忘れずに

ピョートル1世についてシベリア出兵のほかにこの時期のロシアの対外関係はどのようなものであり、どのような意義をもったか。100字以内で記せ。

東京学芸大

1700～21年ロシアはポーランド・デンマークと組んでスウェーデンとの北方戦争に勝利してバルト海に進出し、サンクト=ペテルブルクを建設して首都とした。またトルコを圧迫してアゾフ海にも進出した。

18 世紀のヨーロッパでは、理性を重視し、古い権威や偏見を批判する啓蒙思想が有力となった。イギリスとプロイセンの場合を比較しながら、啓蒙思想がどのような人々によって受容され、また、そのことがどのような影響を政治や社会に及ぼしたか、300 字以内で説明せよ。 京大

イギリスでは新興市民階級による市民革命が、特権の廃棄や経済的自由の保護、議会政治の確立などを実現し、ロックが市民革命の思想を理論的に基礎付けた。この政治と宗教の領域での合理主義・自由主義・個人主義をアダム＝スミスは経済の領域に拡張し、成長途上の資本主義の理論的基盤を築いた。また社会に向かった理性の目は自然界にも向かい、科学革命と呼ばれる発見・発明を生み、新たな自然観が広まった。市民階級の成長が未熟なプロイセンでは、国王フリードリヒ 2 世が啓蒙専制君主として産業の保護育成や宗教寛容令を出して上からの近代化を進めた。しかし社会はユンカーを支柱とする非近代的性格が強く、農奴は解放されないままであった。

市民層が発達していたイギリスでは、名誉革命で絶対王政を倒し立憲王政に移行したため、批判は政治よりも経済活動に向けられ、国家が統制する重商主義政策の打開がはかられた。アダム＝スミスはフランスの重農主義の影響を受けて経済活動の自由放任を主張して古典派経済学を確立し、産業革命期の市民の経済活動を理論的に支えた。市民層が未成熟なプロイセンでは、絶対王政打倒は目標とはならず、フリードリヒ 2 世が啓蒙専制君主として信教の自由の承認、産業の保護育成、司法の改革など国民の福祉向上を目指した。しかし、地主貴族ユンカーが官僚となって影響力が維持されたため、農奴は解放されず、市民層の成長が遅れた。

16 世紀から 17 世紀にかけて、南北アメリカ大陸には、スペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスがそれぞれ植民地を建設したが、18 世紀後半以降、これらの諸国とアメリカ大陸の植民地との関係は大きく変化しはじめる。18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、北米のイギリス領 13 植民地と南米のスペイン領植民地で生じた変化、および、その結果成立した支配体制の特徴について、300 字以内で説明せよ。 京大

七年戦争でイギリスはフランスを破り、北米植民地に対して重商主義政策を強化した。これに対して植民地側は反発し独立戦争を始めたが、この戦争は封建勢力も倒すという市民革命の性格も併せ持っていた。独立後、13 州による共和政の連邦制国家となり、米英戦争で経済的にも自立した。ジャクソン大統領時代には民主主義が進展したが、先住民や黒人奴隷には人権は認められなかった。南米ではナポレオン戦争によるスペイン本国の混乱に乗じてクリオーリョという植民地生まれの白人が中心となって独立運動を進め、米英の支援もあり、スペイン本国から独立した。しかし大土地所有制が存続し、クリオーリョや地域ボスなどによる寡頭支配が続いた。

18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、大西洋をはさんでアメリカ大陸とヨーロッパの双方で戦争と革命があいついで勃発し、この間にヨーロッパ諸国間の関係は大きく変化した。七年戦争からナポレオン帝国の崩壊にいたる時期にイギリスとフランスの関係はどのように変化したか、300 字以内で説明せよ。 京大

七年戦争中のフレンチ＝インディアン戦争に勝利したイギリスは、北米大陸で広大な領域をフランスから獲得して優位に立った。しかし、アメリカ独立戦争ではフランスが植民地側で参戦し、イギリスを孤立させた。その後、フランス革命が激化すると、イギリスは対仏大同盟を結成して対抗するが、ナポレオンの台頭により、一時アミアンの和約で和解した。ナポレオンが皇帝に即位すると、イギリスは再び対仏大同盟を結成して対抗した。一方、ナポレオンは大陸封鎖令を発してイギリス経済に打撃を与えようとしたが、これを無視したロシアへの遠征に失敗、さらにワーテルローの戦いに敗れ、ここに英仏間の第二次百年戦争はイギリスの勝利に終わった。

15 世紀末以降、ヨーロッパの一部の諸国は、インド亜大陸に進出し、各地に拠点を築いた。16 世紀から 18 世紀におけるヨーロッパ諸国のこの地域への進出の過程について、交易品目に言及し、また、これらのヨーロッパ諸国の勢力争いとも関連づけながら、300 字以内で説明せよ。

京大

16 世紀にポルトガルはゴアを拠点として、香辛料貿易を独占していった。17 世紀になるとオランダがセイロン島をポルトガルから奪うが、他方でイギリスがマドラス、ボンベイ、カルカッタを、またフランスはボンディシェリ、シャンデルナゴルを拠点として、インドから藍や綿布を輸送した。18 世紀になると英仏両国は植民地戦争を繰り広げるが、南インドでのカーナティック戦争とベンガル地方でのブラッシーの戦いでイギリスが勝利し、インドでの覇権を築いた。その後イギリスはベンガル地方の徴税権を獲得し、マイソール戦争で南インドを征服し、インドを植民地化していった。イギリスの産業革命の結果、機械製綿織物をインドに輸出するようになった。

200 年前, 代表的な市民革命といわれるフランス革命が進行中であった。この革命について以下の設問に答えなさい。

国民議会 統領(執政)政府 国民公会 立法議会 総裁政府 三部会などの諸組織に留意して革命の性格の変化を述べなさい。(300 字以内)

津田塾大学芸

1789 年,三部会内の対立から第三身分は国民議会を創設し,自由主義貴族や上層市民の指導下,人権宣言や封建的特権の廃止宣言を発し身分制からの解放をめざした。その後成立した立法議会では,中産市民層を基盤とするジロンド派が実権を握り 92 年 8 月に王権を停止した。その後国民公会が共和政を施行し革命は急進化した。小農民や都市の無産市民が支持するジャコバン政権は,封建的特権の無償廃止や 93 年憲法の決議など民主主義の徹底化をはかった。やがて保守化した小農民や商工業者の支持を得て,急進派から政権を再び奪取した穏健共和派は総裁政府をたてた。同政権の弱体による政情不安の中,ナポレオンはクーデタで統領政府を樹立した。

1791 年 10 月に開かれた立法議会で商人を代表するジロンド派と革命継続を望まない立憲君主派が対立し、政権を握ったジロンド派が反革命の態度をとるオーストリアに宣戦布告するなど、革命は混乱の度を深めていった。1792 年の男性普通選挙以降、ジャコバン派政権による恐怖政治に至るまでのフランス革命の経緯について、次の語をすべて用いて述べなさい。(200 字以内)

津田塾大学

国民公会 第一共和政 ロベスピエール

男性普通選挙によって国民公会が成立すると、王政廃止と共和政樹立が宣言され第一共和政へ移行した。主導権を把握したジャコバン派が国王を処刑したため、革命の波及を恐れるイギリスは第 1 回対仏大同盟を結成しフランスを包囲した。これに対応し徴兵制を実施したことで国内でもヴァンデーの反乱が起こり、内外に問題を抱えた政権はジロンド派を排除しつつ農民・都市民衆への懐柔を行う一方、ロベスピエールが独裁的な力を握った。

18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、大西洋をはさんでアメリカ大陸とヨーロッパの双方で戦争と革命があいついで勃発し、この間にヨーロッパ諸国間の関係は大きく変化した。七年戦争からナポレオン帝国の崩壊にいたる時期にイギリスとフランスの関係はどのように変化したか、300 字以内で説明せよ。 京大

七年戦争中のフレンチ＝インディアン戦争に勝利したイギリスは、北米大陸で広大な領域をフランスから獲得して優位に立った。しかし、アメリカ独立戦争ではフランスが植民地側で参戦し、イギリスを孤立させた。その後、フランス革命が激化すると、イギリスは対仏大同盟を結成して対抗するが、ナポレオンの台頭により、一時アミアンの和約で和解した。ナポレオンが皇帝に即位すると、イギリスは再び対仏大同盟を結成して対抗した。一方、ナポレオンは大陸封鎖令を発してイギリス経済に打撃を与えようとしたが、これを無視したロシアへの遠征に失敗、さらにワーテルローの戦いに敗れ、ここに英仏間の第 2 次百年戦争はイギリスの勝利に終わった。

東大 1806 年の大陸封鎖令の目的と結果を 90 字以内で記せ。

英国産業を大陸市場から切り離し、フランス産業に大陸支配させる

(対英戦略であるとともに、フランス資本のための市場確保を目的とする)

イギリスは逆封鎖で報復、密貿易が行われ、大陸諸国は経済的に苦境に立つ

(イギリス経済の被害は少なく、かえって対英貿易に依存する大陸諸国の経済が混乱)

大陸諸国とイギリスとの通商を禁じ、イギリス経済に打撃を与えることをねらった。しかしこれがイギリスとの貿易にたよる諸国の反発を高めて民族的自覚を生み、ナポレオンの没落を誘った

ナポレオンの大陸支配はヨーロッパ社会に様々な影響を与えた。以下の用語を使用して、ナポレオン支配の影響の特質について論じなさい。

神聖ローマ帝国 大陸封鎖令 シュタイン・ハルデンベルクの改革 スペイン王国
自由主義 国民主義

ナポレオンは 1806 年ベルリンで大陸封鎖令を出し、大陸からのイギリス工業製品の締め出しとフランス製品の市場

拡大をねらう これに対してイギリスは大陸諸国の海外植民地を奪い、市場を拡大

同年、彼の保護下で西南ドイツ諸邦によりライン同盟が結成 神聖ローマ帝国が名実ともに崩壊

ナポレオンによる大陸支配の拡大はフランス革命の精神を大陸に広め、被征服地の人々に民族意識を萌芽

1808 年兄ジョゼフの国王即位を契機として反乱がスペイン王国で開始

領土を縮小されたプロイセンでフィヒテの講演で民族意識が高揚し、シュタイン・ハルデンベルクの改革が実施

市民階級の未成熟を反映し、農民解放・教育・軍政改革など上からの近代化が促進

こうした大陸諸国での自由主義と国民主義の高揚はロシア遠征の失敗と彼の没落を招いた

ナポレオンがライン同盟を組織して神聖ローマ帝国を滅亡に追いやったことは、統一にいたるドイツの再編の契機となった。また、法の下での平等や経済活動の自由を保障したナポレオン法典の施行などで、支配下の各地に自由主義や国民主義のフランス革命の理念が浸透した。自由な国民からなるフランス軍の強大さは、支配層にも改革の必要を認識させ、プロイセンがシュタイン・ハルデンベルクの改革で農奴解放を行うなど上からの近代化の試みも始まり、フランス革命以前の国際体制や絶対王政を支えた身分秩序を動揺させた。一方、大陸経済の支配をはかり、イギリスとの通商を禁じた大陸封鎖令を出して各国の経済を麻痺させるなど、フランスの国益を第一とするナポレオン支配体制は、スペイン王国での半島戦争など各国で反フランスナショナリズムを高揚させ、フィヒテの「ドイツ国民に告ぐ」の講演に代表されるように、国民主義に民族主義の要素を加えることになった。

産業革命はなぜ世界で初めてイギリスに起こったか、社会的・経済的要因を中心に述べなさい。
(350 字以内)

津田塾大学芸

テューダー朝期に国民的産業として毛織物工業が発達
都市、農村に有力な中産市民層が成長 17 世紀に二つの市民革命が起こる
旧来の独占や特権が廃止 マニファクチュアの順調な発達で購買力豊かな国内市場が形成
世界市場の覇権争いでもオランダ・フランスを破り、広大な海外市場確保 豊富な資金蓄積
18 世紀には議会の立法措置による第二次囲い込みで多量のヨーマンリーが没落
都市に流失し賃金労働者となり労働力が供給
18 世紀半ば、資本、市場、労働力の諸条件が整う 加えて鉄、石炭などの豊かな資源や、ニュートン
らの科学者による自然科学と技術の進歩も世界初の産業革命の開始される好条件となった。

18 世紀イギリスの工業化にも一定の影響を与えた農村社会の大きな変化を 90 字以内で記せ

東大

生産力向上のため、耕地を集中する第二次囲い込み運動が推進＝資本主義的農業経営
これにより多数の土地喪失農民が発生、その一部は都市に流れて工業労働力の供給源となる

産業革命では、紡績や織布における技術革新、蒸気機関の改良や鉄鋼業における新たな発明など、産業技術上の革命が進展したが、同時に社会構造上の大きな変動も起った。この社会構造上の変動について、人口移動や社会階層に焦点を当てて述べよ。(120 字程度) 大阪大

産業革命と第 2 次囲い込みによって、農村から都市へ人口移動をおこり、鉄道の普及が移動をより活発にした。都市の流入した人口の多くは賃金労働者となり、彼らを雇って工場経営をおこなう産業資本家が台頭し、貴族・地主勢力と対抗するようになった。

※問題の指示が人口移動を社会階層であるから、「農村から都市への移動」と「労働社会層の成立と産業資本家の台頭」について述べる

イギリスでは15世紀末から19世紀の始めにかけて、二度にわたる囲い込み運動(エンクロージャー)が行われた。この運動はイギリス資本主義の生成と発展にとっていかなる意味を持つか。 囲い込み運動が行われた経済的背景とその主な目的、およびこれが農民層に与えた影響を考慮に入れて、200字以内で説明せよ。

北海道大

第一次囲い込み運動は毛織物工業の発達を背景に牧羊のために実施

結果、マニュファクチュアによる資本主義的生産が活発になり、資本蓄積が進行し、土地を喪失した農民が流浪化した。

第二次囲い込み運動は産業革命の進行を背景として工業人口用の穀物生産のために実施

結果、農民は都市の工場労働者となり資本主義の確立がもたらされる一方で、ヨーマンの消滅により農業の資本主義化も完成

ハイチの独立について、宗主国との関係に留意しながら、以下の語句を用いて説明しなさい。

ウィーン体制 黒人共和国 サン＝ドマング ナポレオン
モノカルチャー 筑波大学

西インド諸島のひとつであるエスパニョーラ島の西半分は、コロンブスの上陸後、スペインが支配したが、1697 年にフランスの植民地となりサン＝ドマングとよばれた。ここでは、フランス人が砂糖やコーヒーなどのプランテーションを経営し、黒人奴隷を使ってモノカルチャー経済を確立した。フランス革命が始まり人権宣言の理念が伝播すると、ムラートや黒人奴隷の中から自由を求める声が高まり、トゥサン＝ルヴェルチュールを指導者とする反乱軍が蜂起した。フランスは一旦、奴隷制を廃止したが、革命政権に代わり権力を掌握したナポレオンは、植民地の保持と奴隷制の継続を主張して、軍隊を派遣した。激しい戦闘の末、1803 年に反乱軍が勝利し、翌年ハイチ共和国が誕生した。世界初の黒人共和国の成立は、大西洋を隔ててウィーン体制に動揺を与えたが、フランスは、独立の条件として巨額の賠償金の支払いを求めたため、その後ハイチの発展は妨げられた。

19 世紀前半のイギリスにおいて産業革命が引き起こした国内の深刻な社会問題、労働問題とそれに対処しようとする様々な動きについて 400 字以内で説明しなさい。 97 年 金沢大

産業革命により手工業者は没落し、土地を失った農民とともに工場労働者となり、新興工業都市への人口集中は治安や衛生状態、住居環境を悪化させ社会問題発生

工場では最大利潤を追求する産業資本家のもとで、単純作業や危険な労働に年少者や婦人も従事させられる状況が生まれる

結果＝都市で暴動・機械の破壊を行うラダイト運動頻発

その後、社会主義思想の立場からロバート＝オーウェン等の活動により 1833 年に一般工場法が制定
〔児童の労働に制限〕

一方、議会における 1832 年の第一回選挙法改正や、その後の穀物法、航海法の廃止により、腐敗選挙区の撤廃や産業資本家に有利な改革が実施

労働条件の改善を求めて労働組合が結成、1839 年には人民憲章を掲げたチャーティスト運動が展開
男子普通選挙の導入などを議会に要求（40 年代末撤退）

18 世紀後半のイギリスで産業革命が生じた理由について、次の 2 つのことばを用いて説明しなさい。 農業革命 海外市場 和歌山大

農地併合と農法の改良で生産力の高い農業が営まれ、農業革命が生じ、労働力に余剰が生じた。
また広大な海外市場が資本蓄積や製造業の発展を可能にした。

アメリカ合衆国において 1861 年に起きた南北戦争は、当時の南部と北部の置かれていた状況が違っていたことに原因があるとされている。南北戦争が起きた原因となった当時の南部と北部それぞれが置かれていた状況を、以下の語句を用いて、200 字以上 250 字以内で述べなさい。

なお、句読点、数字は 1 字に数え、所定の語句には必ず下線を付しなさい。

2010 早大 法

連邦主義 奴隷制 自由貿易 産業革命

南部では黒人奴隷を使用する綿花のプランテーションが発展し、機械制綿布を生産するイギリスに綿花を供給したため、奴隷制の維持と自由貿易を求め、中央政府の権限を制限する州の自治を強く主張した。一方、産業革命が進み資本主義の発達した北部は、イギリスに対抗するため保護関税政策と国内市場の統一を求め、それを実現するために中央政府の権限を強化する連邦主義を主張した。また、人道主義の観点や自由な労働力の必要から奴隷制にも反対した

産業革命では、紡績や織布における技術革新、蒸気機関の改良や鉄鋼業における新たな発明など、産業技術上の革命が進展したが、同時に社会構造上の大きな変動も起った。この社会構造上の変動について、人口移動や社会階層に焦点を当てて述べよ(120 字程度)。

産業革命と第二次囲い込みによって、農村から都市へ人口移動がおり、鉄道の普及が移動をより活発にした。都市に流入した人口の多くは賃金労働者となり、彼らを雇って工場経営をおこなう産業資本家が台頭し、貴族・地主勢力と対抗するようになった。

問題の指示が人口移動と社会階層であるから、「農村から都市への移動」と「労働者階層の成立と産業資本家の台頭」について述べる。

17 世紀から 19 世紀初頭にかけて大西洋で行われた黒人奴隷貿易について、以下の語句を用いて説明しなさい。

ヴァージニア植民地

産業革命

西インド諸島

プランテーション

綿繰り機

大西洋の黒人奴隷貿易は、ヨーロッパ、西アフリカ、西インド諸島を結ぶ三角貿易の一部を成した。ヨーロッパからは繊維製品や武器、ラム酒が西アフリカへ持ち込まれ、現地の部族間対立を利用して捕獲された黒人と交換された。黒人奴隷は、西インド諸島へ送られ、サトウキビのプランテーションで使われた。そこで生産された砂糖は、喫茶の習慣が広まりつつあったヨーロッパへ輸出された。黒人奴隷の一部はアメリカにも売られ、1619 年にヴァージニア植民地に初めて黒人が移入されて以来、タバコ栽培に従事した。その後、黒人奴隷は南部の綿花プランテーションで使われた。1793 年にホイットニーが綿繰り機を発明すると、綿から種を除く作業が機械化され、大量の綿花がイギリスへ輸出されるようになり、綿工業の発達を支えた。イギリスではリヴァプールなどの港が黒人奴隷貿易の拠点として栄え、黒人奴隷貿易から得た利益は産業革命の原資の一部になった。